

1 ロンドンオリンピックに向けて英国の自治体が力を入れていること

ロンドン事務所所長補佐 吉本 恭子 (高岡市派遣)

1. ロンドン以外の自治体は聖火リレーでようやく盛り上がる

ロンドン市内の北端、バーネット区に位置する我が家に、先週、区の広報誌が届きました。今回の特集は「聖火リレーがバーネットにやってくる」。表紙の地図によると7月25日(水)12時19分から14時55分にバーネット区を聖火が通るのだとか。我が家からすぐの大通りも通ることになっています。

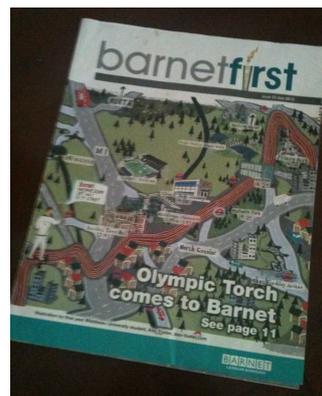
聖火リレーは5月18日に英国に上陸し、開会式が行われる7月27日までの70日間かけて8,000人の聖火ランナーの手により、1,000の市町村を通過してオリンピックスタジアムに届けられます。マン島やジャージー島などの離島を含め、95%の英国人が1時間以内で聖火が見られるようなコース設定にしてあるのだとか。

BBCの世論調査では、「オリンピックはロンドン以外には何の利益ももたらさない」と思っている人が7月の時点でも74%に上るそうです。そんな冷めた英国人でも、聖火リレーが自宅の近くを通った後では、40%の回答者が「オリンピックに対する関心が前より高まった」と答えています。また「オリンピックに金をかけすぎだ」と答える人の割合も、4月の64%から、7月には53%と減少しています。聖火リレーの効果は確かに大きいようです。

2. オリンピック熱を住民の健康につなげたい

とはいえ聖火リレーは自治体にとって負担でもあります。何千か所もの道路封鎖と、聖火ランナーと観客の安全を保障するためのボランティアの動員は、地方自治体の仕事です。また、自治体に頼んで沿道に赤・白・青の花を植えてもらったり、飾りつけをしてもらったりもしているそうです。聖火リレー前後に行われる祝賀行事も地方自治体の協力なしではありえません。

これだけ負担をしてどんな成果があるのか。バーネット区職員のトム・バートンさんは以下のように話しています。「若者の関心を高めるのにオリンピックは最高の機会。若者の生活の中にはスポーツ以外にも興味をひくものがたくさんある。だからこそ、この機会をとらえ、スポーツっていいなと若者が思い、より健康的な人生を送れるように支援したい」。



バーネット区の広報誌。全20ページのうち6ページが聖火リレーの特集、その他6ページがオリンピック関連の記事でした。



近所のバス停の広告スペースも聖火リレーの地図に。

また、地方自治体協議会（LGA）の「オリンピックパラリンピック業務遂行グループ」代表ステファン・キャッスル議員も「何年か先に、地域のどれだけ多くの人がスポーツに参加し、健康的に暮らせるようになっていくかが、我々にとっての成功の指標だ」と話しておられました。オリンピック熱を、住民のスポーツへの関心、健康な生活に繋げたいというのが地方自治体の思いのようです。

（・・・でも、BBC ウェブサイトでは、オリンピック熱が高まる＝健康な生活をする人が増えるという楽観論への反論も紹介されています。「テレビでスポーツを見て面白いな一と思っている人が、突然立ち上がってエクササイズを始めるわけがない」と。一色に染まらない報道っぷりも、英国らしい気がします。）

3. 地元で頑張る人やグループに光をあてる機会にも

バーネット区の広報誌では、地元出身オリンピック選手の紹介以上のスペースを割いて、聖火ランナーとその選ばれた理由を紹介しています。ジャーラ・ジェサさんは、重度学習障害を持つお姉さん2人と両親を支えながら博士号を取得、現在は検眼医として働きながら視覚障害者の方のためのボランティア活動に情熱を注いでいる女性。15歳のマイケル・マーフィー君は、ジュニア国際乗馬大会で3年連続優勝したものの、染色体優性遺伝疾患で筋力が低下、今は2016年のパラリンピックでの優勝を目指して訓練しつつ、地元の小学校を訪問してスポーツの素晴らしさを話してまわっているそうです。このように地域で頑張る個人が広く知られるようになるのも、聖火リレーの成果だと思います。



左上がジャーラ・ジェサさん。下がマイケル・マーフィー君。ほかにも4人聖火ランナーの選ばれた理由が紹介されている。

また、運よく聖火が夜を超す66か所の地域では、3つの大手企業の協賛で有名な歌手や演劇集団による祝賀イベントが開催されます。一緒にローカルバンドや地元劇団も出演できるため、これも、地域の隠れた才能に光を当てる機会になるようです。

私もまずは地元バーネット区で、どんな聖火リレー、どんなイベントが行われるのか、楽しみにしたいと思っています。

4. おまけ：東京オリンピックの聖火リレーはどんなコース？

1964年の東京オリンピックの際は、沖縄県（復帰前）を経て、鹿児島県、宮崎県、北海道の3道県が起点となり、全都道府県を通りながら上京する全4コースが設定されました。およそ1か月かけて10万人ものランナーが聖火をリレーしたのだとか。またコース設定に先立ち、宮崎県、鹿児島県以外に、じつは長崎県も起点誘致活動をしていたそうです。もし東京都への2020年オリンピック誘致が成功したら、聖火リレーのコース設計や起点争いもまた自治体の関心事になりそうです。